

感染性腹部大動脈・総腸骨動脈瘤の治療と予後に関する後向き研究 研究概要

研究名：National Clinical Database（NCD）を用いた感染性腹部大動脈・総腸骨動脈瘤の術式と予後の検討

研究形態：全国他施設後向き研究

研究母体：日本血管外科学会データベース管理運営委員会

研究参加施設：対象となる手術症例の登録がある NCD 参加施設のうち、ご協力いただける施設

研究方法：NCD に 2011-17 年に登録された「腹部大動脈-腸骨動脈瘤」症例のうち、病因として「感染」が選択された患者を抽出する。

これらのうち、

- (1) 臨床症状(痛み or 38° C 以上の発熱 or 敗血症症状)
- (2) 血液検査・培養検査所見(WBC10000 以上 or CRP5.0 以上 or 培養陽性)
- (3) 画像検査所見(瘤径の急速拡大 or 嚢状瘤 or いびつな形状 or 大動脈周囲の膿瘍 or 大動脈周囲脂肪織濃度上昇)

の条件を全て満たす症例を対象とする。過去に腹部大動脈-腸骨動脈瘤の手術既往がある症例は除く。

手術症例を登録した施設に依頼し、追加情報を収集する。

追加情報の収集は、NCD から各施設へ NCD 登録画面でのデータベース追加入力を依頼し、各施設で入力していただいたものを NCD が回収する方式とする。集積したデータを、後方視的に解析する。